

マート・テロワール協会地域活動支援事業参加申込書

申込者 情報	区分	<input type="radio"/> 個人 <input checked="" type="radio"/> 団体 (どちらかを●に)
	団体名	一般社団法人 KURU KURU
	個人名	
	団体代表者名	矢野智美
	住所	事務局：広島県安芸高田市向原町長田 2728-1
	E-mail	aiyumi1113@gmail.com
	電話	080-7989-9206
	活動地域	
活動概要	<p>農産物の加工・販売、また農産物の需要と供給をつなげる収益を得られるプラットフォームをつくる。</p> <p>○活動趣旨</p> <p>私たちが活動する広島県安芸高田市は、美しい田園地域です。しかし、日本のどこの農村地域をとっても同じように、多種多様な社会問題が広まっています。</p> <p>でも、私たちは信じています。</p> <p>一見、過疎高齢化で荒廃が待ったなしで進んでいるように見えても、生み出す力をもっている一次産業のポテンシャルを十分に発揮することができれば、まだまだ発展の余地が残されている。そして、その発展は、地域の自尊心を回復していきまた新たな発展を生むことができると。農村が元気になれば、きっと日本は元気になる！そう信じ、衰退が続く農村地域に試行錯誤で生まれるワクワク感を形にするイノベーションプラットフォームを作って行きたいと思っています。</p> <p>○活動展望</p> <p>変革を起こすためには、まず意識を変える必要がある。</p> <p>私たちは農村地域での活動を行いながらそれを強く感じるようになりました。</p> <p>農村が元気になるためには、その農村を作り上げてきた小さな農家たちが元気にならないといけない。しかしながら、ことなく漂う衰退と疲弊の雰囲気。自分たち農村が日本の希望となりえると信じるためには、「固定観念」を打ち破るパラダイムシフト、そして農村を支える農家たちのインサイド・アウトが必要と仮定し、農家の積極的未来への挑戦を下支え</p>	

		<p>する取り組みとして令和3年度に農家が気軽に加工にチャレンジできるシェアキッチンをスタート（資料1）。令和4年度は地域資源の価値向上と取り組みとして、規格外米の価値化に取り組んでまいりました（資料2）。そして、次は、水田からの転作輪作可能な作物（もち麦とハト麦）をスマートテロワール理論に基づき、自給圏構築の実証実験を行ってまいります。</p> <p>○取り組み概要</p> <p>自給圏構築の最初の取り組みとして、すでに同市にて栽培が盛んな、もち麦（自給率10%）および来年度に試験栽培を開始するハト麦（自給率18%）のを対象に製粉化できる体制を整え、小売店及び飲食店等へなどへのマーケティングを可能にし、農産物を加工可能商材とするプラットフォームを造成する。</p> <p>※もち麦</p> <p>平成30年9月より同市ではもち麦生産振興協議会が発足し、最盛期の生産面積は、約30ha・生産量は約80tに達す。</p> <p>※ハト麦</p> <p>古くから漢方薬や滋養強壮食として重んじられているハト麦は、耐湿性が高いので、水田と畑のどちらでも栽培が可能で、田植え機やコンバインなど、水稻の栽培機械の転用が容易。</p> <p>来年度から試験栽培開始予定</p> <p>○取り組みフロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製粉化可能な体制づくり <p>①製粉場の整備</p> <p>②製粉機の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発の推進・自消圏のプラットフォーム造成 <p>③農業者と加工者との共同で、農産物の加工可能性を模索するプラットフォームを作る</p>
活動詳細	目指す姿	農産物の加工・販売、また農産物の需要と供給をつなげる収益を得られるプラットフォームをつくる。
	達成時期	1年半後（もち麦の生産が来年度からスタートするため）
	マイルスト	① 製粉可能な体制づくり

	ン	② 商品開発の推進・自消圏のプラットフォーム造成
	重点課題	加工者との連携体制及びハト麦の栽培
	進捗状況	製粉機選定 ハト麦の栽培圃場の選定
	協力者	もち麦生産振興協議会・地域小売・加工経営体
	総予算	¥3,500,000
支援希望形態		● 資金支援 ○ 助言支援 ○ 協業支援
支援希望額		¥1,000,000-

- 活動詳細については複数行で入力されても構いません
- 活動内容の理解を深めるための資料がありましたら添付して下さい
- この申込書に記入のうえ、mail@smart-terroir.com 宛お送りください



JR芸備線の向原駅(安芸高田市向原町)構内に入る食料品店の一角。共同利

シェアキッチンで商品化を目指すケーキに合う米粉作りに挑む森本さん(左)と矢野さん。「ここを拠点に小さな農家の挑戦を支えたい」



Farmers Plus シェアキッチンの所在地は安芸高田市向原町坂37の4。事務局のアドレスはoffice.jesson@sfarm@gmail.com

挑戦手助け地域に活力

農家支援

「Farmers Plus」安芸高田市向原町

用できる調理施設のシェアキッチンで年の瀬、農業矢野智美さん(34)と向原町長田さんと同店オーナーで元地域おこし協力隊員の森本真希さん(49)と吉田町吉田の「移住組」は複数の銘柄の米を用意し、商品化を試みるカップケーキに合う米粉作りを繰り返した。

「地域に何かワクワク感ほしいよね」。どこか暗いムードが漂う市の将来を思

い、住民有志が昨春、地域の主産業である農の挑戦を支援する組織「Farmers Plus (ファーマーズプラス)」を結成した。わが家の農業はもちろんだ。地元農産物のマルシェの開催や移動販売などを視野に、周りの小さな農家を元気にし、地域の底力を高める好循環を構築する。メンバーは同市の女性9人。農家のほかに教師や社会福祉士も。職種の多様性を強みに農を絡めた教育や移住、新規就農の支援といった「プラスα」も追求し、目標はこれら地域課題の解決を図るソーシャルビジネスの展開だ。

シェアキッチンはその第1弾。農林水産省や市の補助事業を活用し、調理器具なども準備した。矢野さんは狙いをこぼす。「例えば小さな農家が副収入を得るため加工品を作りたいと思っても、試作する場所、ノウハウ、労力もなくて結局は諦めちゃうでしょ」

だからグループの信念は「諦めない」。試行錯誤を繰り返す。試行錯誤を繰り返す。試行錯誤を繰り返す。

三次支局 ☎0834(6)3515 FAX(6)0088
庄原支局 ☎0834(7)20149 FAX(7)0088
安芸高田支局 ☎0836(4)20063 FAX(4)0088
東城ステーション ☎0847(2)0660

(胡子洋)

資料2 広島県 地域課題解決プロジェクト MVP 取得 (2023年2月16日)

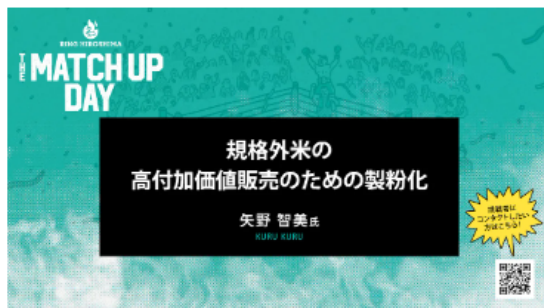
<https://hiroshima-sandbox.jp/ring/archive/2022/mvp/>

規格外米の高付加価値販売のための製粉化

矢野 智美・森本 真希

KURU KURU

【セコンド】仲 正人



発表をみる

それが「くず」なんて誰が決めた!? 現代社会の課題解決の糸口を農村地帯に見出し、抜群の行動力と巻き込み力で地域の“眠れる資源”を見事に商品化されました。

中国地方に当初くず米を加工できる設備が無い、という状況からスタートされながら、さまざまな出会いを活かし、製粉することに成功。地域を超えたネットワークを紡ぎ、地元の高校生と商品開発を行うまでの成長を遂げられました。熱い気持ちを持ち続け、あるものを活かし、見事にシンカさせたチャレンジャーとセコンドに本年度のMVPを贈ります!!

★受賞者のコメント

“KURU KURU”はもともと、安芸高田市の農業女子たちの試行錯誤から生まれた団体です。普段は仕事と家庭と地域の事で、いっぱいいっぱいになりながらも、自分たちの町をより良いものにしていこうと頑張っているんです。今回MVPを頂いた事は、私達だけでなく、農村で頑張っているそんな仲間達にもエールとなり、前に進む勇気となる事と思います。

RING HIROSHIMAに応募した当初は、くず米を粉にするという漠然とした取り組みでしたが、徐々に見えてきた“地域商社”という方向性。セコンドの仲さんや事務局・関係者の皆様が、私達を信じ共感し、サポート・ブラッシュアップをして下さったお陰だと思っています。本当にありがとうございました。

これから、私達“KURU KURU”は、“農村がワクワクする事が日本の社会問題を解決するカギとなる”という信念を胸に、地域×生産者×加工者に寄り添い、地域に眠る地域資源を価値あるものとして形にしていくべく、邁進してまいります。

発表動画 <https://www.youtube.com/watch?v=YpUrlmNpRxI>

